

● くらし・人・環境を見つめて

i land fill

— フェニックス広報誌 —



CONTENTS

- INFORMATION** 平成17年度予算概要
 神戸沖処分場被災箇所への復旧
 広域処理対象区域の追加指定が告示される
シリーズ ゴミのゆくえ3 泉大津沖埋立処分場
リレーエッセイ 早川克典(大阪湾広域臨海環境整備センター副理事長)

INFORMATION

平成17年度予算概要

大阪湾広域臨海環境整備センターは、廃棄物の適正な海面埋立てによる処理及び港湾の振興を図るため、広域処理場の建設等の業務を行うとともに、大阪湾圏域の近畿2府4県、約2000万人の廃棄物の埋立処分を行っております。

平成17年度の主な業務として、引き続き各基地で廃棄物の受入れ、海上輸送及び埋立処分場における海面埋立てによる処理を行うとともに、周辺環境の保全のため、排水処理施設等の運転・環境監視調査などを実施いたします。

建設事業として、管理型廃棄物の埋立区画である大阪沖処分場の護岸建設を平成20年度末供用予定として進めます。

既存施設等については、廃棄物受入情報システムの更新・大阪基地等のダイオキシン類対策工事・泉大津沖埋立処分場の外周管理道路工事を実施いたします。

廃棄物処理料収入は、減量・リサイクルの進展の影響により、一般廃棄物・上下水汚泥受入量が減少傾向となっているものの、産業廃棄物・陸上残土等のスポット的な受入れが期待されることから、前年度に比べて増加するものと見込んでおります。しかし、今後のセンターの経営状況は、大阪沖埋立処分場での廃棄物の処理を開始すると、新たな運営経費が大幅に発生するにもかかわらず廃棄物処理料の増加が見込めないため、厳しくなるものと予想しております。このため、引き続き経費の一層の削減を図り、センターの安定的な運営に努力してまいります。

| 収入支出予算 | | (単位:百万円) | |
|---------|--------|----------|--------|
| 支出の部 | | 収入の部 | |
| 廃棄物処理費 | 8,466 | 事業収益 | 11,802 |
| 施設建設費 | 9,124 | 受託事業収入 | 8,445 |
| 一般管理費 | 598 | 借入金 | 1,069 |
| 借入金返済支出 | 3,139 | 事業外収入 | 129 |
| 雑支出 | 113 | | |
| 予備費 | 5 | | |
| 計 | 21,445 | | 21,445 |

| 予定損益 | | | | (単位:百万円) | |
|------|--------|------|--------|----------|-----|
| 当期費用 | 19,808 | 当期収益 | 20,377 | 当期利益 | 569 |

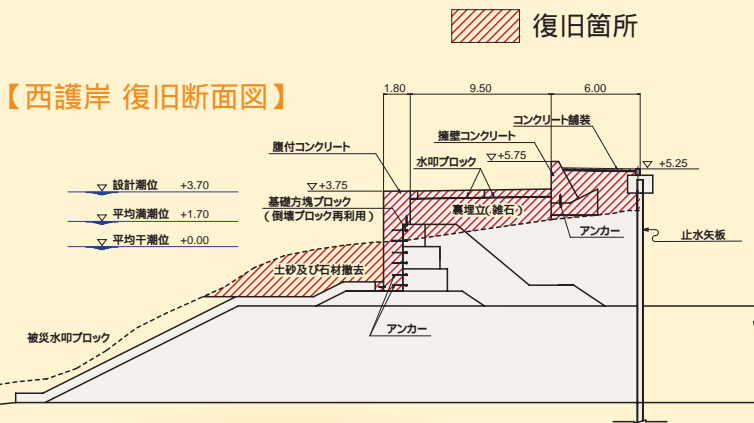
百万円単位での端数処理のため、合計値は必ずしも一致しません。

神戸沖処分場被災箇所への復旧

平成16年秋、近畿圏に勢力の強い台風が上陸し、各地に大きな被害をもたらしました。

当センターにおいても、神戸沖埋立処分場の護岸が崩壊するなどの大きな被害が発生し、皆様には、多大なご迷惑をおかけしました。

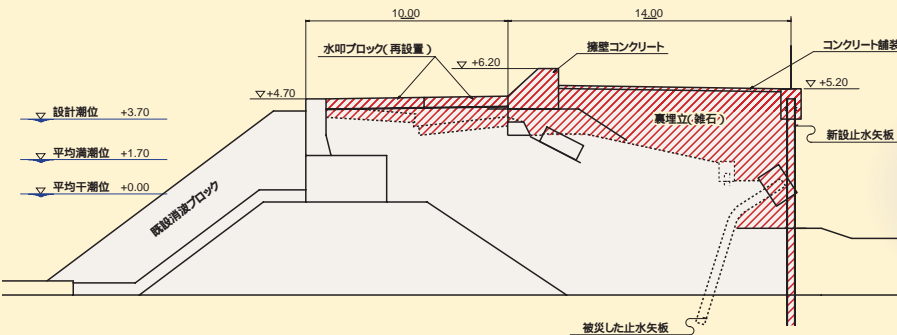
現在、平成17年夏までの完成を目指して、台風などの災害に対し、より安全性の高い護岸として、護岸の復旧工事を進めています。



復旧工事の概要

- 最上段の方塊ブロックを引き揚げて、積み直します。
- 方塊ブロックにアンカーを設置し、腹付けコンクリートを打設します。
- 波浪に対し、安全性の高い擁壁コンクリートにします。
- 水叩ブロックを据え直します。
- 擁壁コンクリートと止水矢板の間をコンクリート舗装します。

【南護岸 復旧断面図】



南護岸 被災状況
擁壁コンクリートが埋立地側に傾斜転倒し、2カ所で止水矢板が変形

復旧工事の概要

- 止水矢板を引抜くことが出来なため、新たに止水矢板を打ち込みます。
- 波浪に対し、安全性の高い擁壁コンクリートにします。
- 水叩ブロックを据え直します。
- 擁壁コンクリートと止水矢板の間をコンクリート舗装します。

広域処理対象区域の追加指定が告示される

平成16年12月28日、広域臨海環境整備センター法に基づき、環境省より広域処理対象区域の追加指定が告示されました(環境省告示第81号)。今回追加指定を受けた市町村は、自己の最終処分場が逼迫している滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県の54市町村で、その人口は約56万人(現広域処理対象区域比約3%)、

面積は約4,000km²(同約30%)です。
なお、追加指定された市町村からの廃棄物の受入れにあたっては、広域臨海環境整備センター法に基づく、国土交通大臣・環境大臣による基本計画の変更認可と、両大臣への実施計画の提出が必要となります。

大阪府港湾局が大規模緑地活用アイデア募集を実施

泉大津沖埋立処分場は、安定型区画・管理型区画を備える最終処分場として、平成4年から大阪湾圏域の主に大阪府、奈良県、和歌山県の一般廃棄物、産業廃棄物の受入れを開始しました。その面積は203haと甲子園球場の50個分以上にも及び、当センターが運営する処分場の中でも最大です。

管理型区画は平成14年3月をもって受入れを終了し、現在は地表面を土砂で覆うなど、整地を進めています。

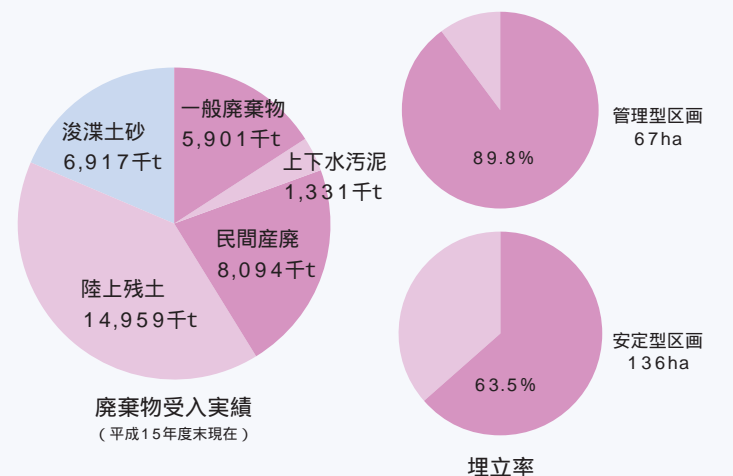
今後の活用については、大半が緑地として計画されているため、大阪府港湾局では、平成16年7月に「堺泉北港汐見沖地区大規模緑地活用アイデア募集」を実施しました。今後、大阪府港湾局では、応募されたアイデアを参考として、土地利用構想を策定する予定です。



泉大津沖埋立処分場 堺泉北港/泉大津市汐見町地先

泉大津沖埋立処分場の沿革

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 昭和60年12月 | 大阪湾圏域広域処理場整備基本計画の厚生・運輸両大臣認可 |
| 平成 元年 3月 | 大阪府知事が埋立免許交付 |
| 平成 元年 6月 | 工事着工 |
| 平成 3年 9月 | 外周護岸概成 |
| 平成 4年 1月 | 廃棄物受入開始 |
| 平成 14年 3月 | 管理型廃棄物受入終了 |



応募アイデア受賞作品



【最優秀賞】 大阪泉大津サーキット構想



【優秀賞】 Marinpic Park (マリンピック・パーク)構想

平成16年12月に一部区画が竣工

安定型区画は、現在も受入れを行っておりますが、平成16年12月に区画の一部、約20haの埋立てが終了しました。



(平成16年5月 撮影)

